

COVID-19 各地域におけるオーバーシュート対策への提言

—横浜におけるダイヤモンドプリンセス層別化の経験より—

横浜市立大学大学院医学研究科 救急医学
竹内 一郎

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 は、世界的広がりを見せています。今後、本邦でも各地域において COVID-19 患者の増加が懸念され、それを抑えるためにいろいろな対策が講じられていますが、オーバーシュートの発生が懸念されています。

横浜市では 2020 年 2 月上旬にダイヤモンドプリンセス(乗客・乗員 3,700 名)が寄港し、船内隔離中に 500 名以上の PCR 陽性者が搬送される事態になりました。この時、地元横浜市の医療がオーバーシュートしなかったのは、船内で適切な層別化がなされたからでした。

具体的には船内に入った医療従事者によって、

- ① 強い呼吸苦を訴えたり、胸痛、腹部反跳痛を訴える症例など緊急に診断・治療が必要と考えられる患者は地元横浜市の医療機関へ消防の救急車で搬送
- ② 軽度の呼吸苦や倦怠感など少し待てると判断されれば民間救急車で神奈川県内の医療機関へ搬送
- ③ PCR 陽性でも無症状の方は自衛隊車両などで一括して遠方の医療機関へ搬送、というような層別化がなされました。これによって横浜市の医療機関ではコロナ陽性患者の対応と通常救急体制の両立が可能となりました。

今後、各地域ではオーバーシュートへの対策が求められることとなります。集中治療ができるベッド、マンパワー、そして医療資源は限りある貴重な資源です。重症な患者さんを救命するために私たちの横浜での経験が少しでも皆さまの地域の参考になればと考え、寄稿させていただきました。

詳しくは、日本救急医学会英文誌 ACUTE MEDICINE & SURGERY オンライン版 (URL <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/ams2.506>)をご参照ください。